



申3号

内房線 上総湊～竹岡駅間で発生した感電死亡事故に関する申し入れ団体交渉を行う！②

9月25日開催

2. 2008年9月17日に発生した東北本線 黒磯駅構内感電死亡事故の教訓に基づき「最後の砦」である停電確認を確実に実施するための環境を整備すること。

組合	会社
----	----

なぜ繰り返し感電事故が発生するのか。黒磯感電事故の教訓は生かされているのか。	黒磯事故の教訓として、5項目の対策を行ってきた。今後も継続して取り組んでいく。教育についても今回発出した対策に追加資料も付けた。
停電確認は最後の砦と会社は回答しているが何故省略してしまうのか。	ルールの成り立ちをしっかりと周知させたい。守れないとどのような危険があるのかも教育を行う。
会社対策で接地箇所の写真撮影記録はなぜ行うのか。作業時間が短い箇所は手間である。	接地が行われているかの確認である。また、作業前の一呼吸を置く取り組みでもある。現場の状況と乖離があれば見直す必要はある。 確認！
検電・接地訓練を行っているが、実設備を使用する訓練を行うべきではないか。また、会社としてどのような実技訓練を考えているか。	訓練を行うための訓練ではない。検電・接地の重要性を認識するため行う。

停電確認をしなければ作業に入らないことを再度周知することを確認

3. 同種事故を撲滅するために、真の対策を打ち出し「安全マネジメント」の強化と、安全第一の職場を構築すること。

会社発足から191名の尊い命が失われたが会社として事実としての認識を確認したい。	命を落とすことは大変重く受け止める。発注側・受注側を含めてこのような事が2度と無いように取り組む。
三現確認キャンペーンの内容で現場では何を実行するか明確になっていない。本社・現場間で温度差があるのではないのか。どのように考えているか。	現場の実態を把握して取り組んでいく。
ETキャンペーンで表彰を行っているが裏を返せば作業時間に余裕がないのではないのか。	時間が足りなくなることも多少はあるが、不具合の発見による修繕や、施工中のミスを修正するなどの事象が多く事故を防止する件名が多い。
これまで議論を行ってきたが安全は労使の共通課題であることは認識しているか。	共通課題である。事故事象に対しての対策はしっかり行っていく。 確認！
今回の事故で責任追及ではなく原因究明をしっかりと行っていくこと。	現時点での対策は発出しているが捜査中の件もあるため会社として原因追及には至っていない。今後しっかりと原因を追究していく。
最終的な対策については、分かりやすく理解しやすい対策を会社として行うこと。	マニュアル等を含め全員が周知できる内容としていく。

「命」を最大の価値基軸に安全第一の職場をつくり出そう！